

工学研究科 情報工学専攻



工学研究科 情報工学専攻 メディア情報
3年生 箕浦 大晃さん

このプログラムの利点は大きく2点だと考えています。

1つ目は研究者にとって将来必要となる能力を獲得できる点です。このプログラムでは研究者にとって必要な能力である、コミュニケーション能力やグローバル力を身につけられるキャリア開発・育成コンテンツに参加することができます。特に社会課題ワークショップは、上記の2つの能力を培うことに有効だと感じました。

2つ目は経済的な支援を受けられる点です。博士後期課程に進学すると、学費や日々の生活費、研究物品の購入等の経済的負担があります。次世代プログラムに参加する学生には、研究費、生活費に使用できる支援金が支給され、十分なサポートを受けることができます。博士後期課程は研究の日々です。日々、関連研究のサーベイや実験で時間が過ぎ、アルバイトをする時間の確保は難しいと思います。しかし、次世代プログラムの支援を受けられれば、経済的な問題はクリアでき、かつ将来社会に飛び立つためのノウハウを身につけることができます。

最後に、大学院への進学を検討している学生のみなさん、研究が好きなら進学すべきだと思います。ご参考になれば幸いです。

【次世代プログラムでの活動内容】

色々な社会人の方や同世代の別分野の研究者と話す機会を得て、非常に勉強になりました。研究そのものの話だけでなく、どうやって研究をビジネスに繋げるかという視点も学ぶことができました。プログラムのコンテンツのなかで、もっとも自分の将来にとって有益だと感じたのは企業インターンシップです。インターンシップに参加することで、企業における研究の進め方やコミュニケーションの取り方など、様々な面で学ぶことができました。

【今後の抱負】

これからは自分の専門である画像処理の分野の最前線で活躍できる人材になれるよう頑張っていきたいです。

【後輩に向けたメッセージ】

次世代プログラムに採択されれば、生活費などの経済的な心配がなくなり、全力で研究に取り込むことができます。何か実現したい目標があれば、それにたどり着くための条件を明確にし、一つずつ実現して行けばいつか成功できます。



工学研究科 情報工学専攻 メディア情報
2年生 史 宇植さん

私は、人工知能 (AI) の「ブラックボックス問題」に関する研究に取り組んでいます。AIが判断した結果に対し、根拠や理由を人が理解できない。つまりAIの内部がブラックボックスであるというもので、AIの活用を広げるうえで大きなネックになっています。大学ではこの問題に取り組み、実社会の様々な問題解決に役立つAIを目指しています。

次世代プログラムでは、キャリア開発セミナーや社会課題ワークショップなど、知見を広げることができる多様なコンテンツが用意されています。その中でも発信力強化ワークショップでは、文章で研究内容をいかに上手く相手に伝えるかに取り組みました。論文執筆を含め物事を相手に伝える場面は多くあるため、相手に伝わる文章力は重要であると感じました。このように次世代プログラムは、社会で活躍する上で重要な能力を身につけることができます。今後は、次世代プログラムへの参加も含め、博士後期課程在学中に数多くの経験を積み、より広い視野を持って物事を捉えることができるように精進したいと思います。

【後輩に向けたメッセージ】

どの進路を選択してもいつかは社会に出る時が来ると思います。そのため就職と進学のいずれがより自分が成長できる環境であるかを考え進路を選択すると良いと思います。



工学研究科 情報工学専攻 メディア情報
1年生 板谷 英典さん

本プログラムのキャリア開発・育成コンテンツを通じて、広い視野とリーダーシップ能力を養うことができます。これにより、研究グループにおいても積極的に後輩育成に貢献し、全体としての研究力向上に寄与するシナジー効果が生まれています。



指導教員 山下 隆義教授